

■人の世の無常

遠くの山々が雪化粧し、登校してくる子どもたちの吐く息が白く見えるこの頃、「喪中につき年末年始のご挨拶ご遠慮申し上げます」ということを知らせる葉書が続々と私の家にも届いています。

特によく知っている方、お世話になった方が、まだまだ死にたくないと思いつつも、無念にもこの世を去られたのであろうと思うと、本当に人の世の無常を感じてしまいます。

今現在、こうして元気に働くことができ、その日その日の生活に追われているとなかなか考えられないことなのですが、こういった葉書を見ると、不幸にもこんな悲しい状況が自分の身の上には絶対に起こり得ないことだとは、決して言い切れないことに気づかされるのです。

30年前の1.17の阪神・淡路大震災、20年前の10.20台風23号、さらに今年元旦の能登半島地震、……。だれがこんな惨事をいったい予想できたでしょうか。

何も、病気や自然災害だけではありません。道路を歩いていて、また車を運転している交通事故、……。順調に天寿を全うすることができなくなっている場合も少なくない現代社会です。

人の命とはどういうものなのかを考えてしまいますが、はっきりと言えることは、人として生きていることは当たり前ではないということです。私たちは、自分を取り巻いている様々な要因に支えられてはじめて、人として生きていることができているのです。

同時に、健康で生きていられることにも感謝しなければなりません。

その感謝とは、美しい花を見て美しいと感じ、嬉しいことを素直に喜び、不正には憤りを覚え、胸が詰まるようなことには涙を流すこともある……。こういったことです。

さらに今日一日、当たり前のように生きていることは、実は自分ひとりの力ではなく、様々な要因があるのだと素直に感じられること、こんなことこそが大切なのです。

私たちが苦しいことや嫌なこと、しんどいこと、辛いことなどの大変な状況の中でも、その日その日を大切に精いっぱい生きていくこと、そして健康に暮らすことができるなかに、幸せの青い鳥を見つけることができるのかもしれない。

今年もあとわずかとなりました。改めて、一日一日を大切に過ごしていきたくものです。

(校長 山本 考一)

配付を希望された児童には、個人所持となるクマ鈴をお渡ししています。
大切に使用して下さい。



校長ブログ：府中っ子の学校での様子をお伝えします。(パスワード：)